

Alpha/Wonder-K

All songs written by Wonder-K

01.Route

最小の損害で 最短のルートで
歩いていこうとしたって
いつだってきっと
大事なものはそこにはない

たくさんの苦しみと少しの喜び
それで十分だから
できるだけ多く
拾い集めていこう

そうして巡り合っていく
全てのことには
いつも意味がある
見つけようとなえすれば見つかるよ

生きてる証を今
僕らここで刻んでいく
身を裂くような苦しみさえも
僕をただ動かしていく
決まりきった明日など
今すぐ投げ捨てればいい
自分の目で 自分の足で
僕が僕でいられるような
明日へ向かう

蹴躓いている他人の姿を
見て嘲笑っていたって
いつになっても
満たされることはない

何度も転んだとしても
新たな自分に
出会うために僕はただ
歩き続けていたい

生きてる証を今
僕らここで刻んでいく
消えはしない悲しみさえも
僕をただ動かしていく
決まりきった明日など
もう必要はないだろう
自分の目で 自分の足で
僕が僕でいられるような
明日へ向かう

向かうよ

この道の果てで僕を待つ
ものが何かなんて分かりはしない
だけど進むんだ その向こうへと
僕はもう覚悟はできてるよ
行こうか

生きてる証を今
僕らここで刻んでいく
身を裂くような苦しみさえも
僕をただ動かしていく
決まりきった明日など
今すぐ投げ捨てればいい
自分の目で 自分の足で
選び取った道があるよ

自分の目で 自分の足で
僕が僕でいられるような
明日へ向かう

02. Stuck

僕は今日も君のもとへ向かうよ
いつものバスに乗って
どうせ今日も顔を合わせたって
いがみ合うだけなのに

何もかも全てを
断ち切れたならいいのに
僅かな可能性に
今もしがみついている

すれ違う思いが
僕たちを傷つけていく
どうやったって上手くいかないこと
もう気づいてしまったんだ
ありふれたはずだった
幸福な明日はもう来ない
笑いあえた日々の中でまだ
囚われて進めないんだ

僕を乗せたバスは渋滞に遭って
少しも進まなくて
君との日々に関われた僕と
どこか似ている気がした

分かりあえるだなんて
まだどこかで思ってたんだ
僅かな可能性に
今日もしがみついている

すれ違う思いが
僕たちを傷つけていく
どうやったって上手くいかないこと
もう気づいてしまったんだ
ありふれたはずだった
幸福な明日はもう来ない
それならいつそんな僕のことば
このまま消してしまつてよ

いとも容易く崩れ去っていく
永遠の中に取り残されて
戻れはしない遠い日々を
想うよ…

すれ違う思いが
僕たちを傷つけていく
どうやったって上手くいかないこと
もう気づいてしまったんだ
ありふれたはずだった
幸福な明日はもう来ない
笑いあえた日々の中でまだ
囚われて進めないんだ

囚われて進めないんだ

03. Exit

寂しさを僕はそっと
ポケットにしまいこんで
敷かれたレールの上で
ただなんとなく生きていた

手当たり次第に縋り付いた
時代が押し付ける「理想」
そんなものでこの痛みは
覆い隠せやしないのにね

「こんなはずじゃない」だなんて
嘆く日々の中で
掠れてく祈りを
忘れたくないよ

何処までも続いていくような
暗闇に出口を探したんだ
ただ君がいるならその向こうへ
飛んでいけるのに

僕の中の汚れを
フィルターに通して僕はまた
「綺麗な言葉」を吐いて
笑顔を振り撒いたんだ

本当は泣き叫びたくて
でもその勇気もない
こんな僕を誰かが
分かってくれないかなあ

何処までも続いていくような
暗闇に出口がなくなつて
ただ君がいるなら僕はもう
笑っているのに

不器用なこの一步が
正解へと続いているなんて
今でも僕はまだ信じている
信じているんだよ

何処までも続いていくような
暗闇に出口を探したんだ
ただ君がいるならその向こうへ
飛んでいけるのに

ただ君がいるなら…

04. まぼろし

ため息がひとつ
ひび割れた世界に溶けた
また僕は今日も
叶いもしない夢を見る

いつだって
同じように
繰り返して
此処にいるよ

手を伸ばしたのは
いつの日だって
決して届かない幻なんだ
それでも誰かを想うことぐらい
今の僕にも許されるのかな
教えて

上手く抑えてた
はずのこの感情に僕は
気付いてしまった
出来れば気付きたくなんか
なかったなあ…

今日だって
同じように
繰り返して
此処にいるよ

そして
手を伸ばしたのは
いつの日だって
決して届かない幻なんだ
それでも誰かを想うことぐらい
今の僕にも許されるのかな

やがて何もかも時の中で
混ざって消えていくと言うのなら
今だけはそっとこの苦しみと
共に歩いて行くのもいいかな
そう思った

05. ノスタルジック

「ありえないこと」
「できもしないこと」
全部ゴミ箱に投げ捨てた後で
ちょっと思い出した

子供の頃 無邪気なまま
君と語り合った
大きな夢のこと
そして君のこと

あの日小さな公園で二人
覗こうとした未来と
今のこの現状は
少し違うけれど…

いつか何もかも
変わってしまったとしたって
「僕はここにいるんだ」って
胸を張って言えるよ
こぼした涙も
苦しみも温もりも
全てが心の中駆け巡って
僕を作っていく

大人になって
守るべきものも増えて
その分僕たちはどこか
臆病になっていく

前に進むために
捨てたものはたくさん
だけどその分だけ
「今」を愛せるよ

いつか何もかも
変わってしまったとしたって
変わることはない想いを
持ち続けていたいんだ
足搔いた昨日も
まだ見えない明日も
全てが心の中駆け巡って
僕を作っていく

いつか何もかも
変わってしまったとしたって
「僕はここにいるんだ」って
胸を張って言えるよ

そして何もかも
変わってしまった世界で
変わることはない想いを
持ち続けていたいんだ
こぼした涙も
苦しみも温もりも
全てが心の中駆け巡って
僕を作っていく

06. 君にとって

憂鬱な日々を積み重ねても
日に日に切なさが増していても
変わらず僕の脳内にそっと
思い浮かぶのはまた君のこと

愛し方さえ分からないくせに
愛されたいだなんて願う
こんな僕のこの気持ちにはただ
居場所なんてものはないのに

変わってく世界の中で
確かなものを僕らは探している
そして今君にとってのそれが そう
僕じゃないことなんて分かっていた
Ah…

今となってはもうこの世界に
期待などしないようにしている
だけど君がそんな風に笑うから
少しだけまた苦しくなるんだ

身の丈に合わないこんな気持ちは
きっと捨てなきゃいけないね
分かっているけど抜け出せないんだ
きっといつだってこのままだ

星の数ほどの中から
大切なひとつを僕らは探している
そして今君にとってのそれが そう
僕じゃないことなんて気づいていた
Ah…

君にとって「大切なもの」に
僕はきつとなれはしないけど
今でもそっと心の奥で
君を想っていてもいいですか？

変わってく世界の中で
確かなものを僕らは探している
そして今君にとってのそれが そう
僕じゃないことなんて分かっていた
Ah…
分かっていたんだ
もう…
気づいていたんだ

07. 忘却

他愛ないやりとりで
無邪気にはしゃいでいた日が
まるで遠い過去のように
思えた少し暑い午後

街はいつものように
休みなく動き続けて
途方に暮れていた僕は
置き去りにされてしまった

まだ君があの日と同じ
変わらないあの笑顔で
僕の目の前に現れるような
そんな気がしているんだ

今でも僕は君のことをずっと
どこにいたって探してしまうよ
無駄なんだからそんなことは僕も
知っている

今でも僕は君と見た夢から
醒めないままで漂っている
短い夢の中を彷徨っている
それだけだ

もう一度君に触れたい
その優しさに その温もりに
途切れていく君の全てを
全てを僕は忘れたくない…

もう一度君に触れたい
その優しさに その温もりに
途切れていく君の鼓動が
全てをそっと忘却の果てへと
ただ 連れて行くだけ

もう一度君を感じたい
その優しさを その温もりに
途切れていく君の存在が
全てをそっと忘却の果てへと
ただ 連れて行くだけ

もう一度君を感じたい
その優しさを その温もりに
途切れていく君の存在が
全てをそっと忘却の果てへと
ただ 連れて行くだけ

ただ 連れて行くだけ

08. Bright

乾いた空気が今僕らを包み込んで
曇り空がすうっと晴れていく
ずっと迷い続けた僕に君はそっと
小さな魔法をくれた

いつだって同じように諦めを積み上げては
何もできないまま老いていく
そんな暮らしはもう止めにしなくちゃって
心からそう思えたんだ

降り注いだその光が焼きついていく
いつになってもきっと消えはしないだろう
動き出す未来 全てに意味が生まれ始める
このままで ほら どこへでも行けるような
気がしてる

降り注いだその光が焼きついていく
その痛みで今僕は変わってゆく
動き出す未来 全てのことを受け止めて
このままで ほら どこへでも行けそうだよ…

降り注いだその光が焼きついていく
いつになってもきっと消えはしないだろう
動き出す未来 全てに意味が生まれ始める
このままで ほら どこへでも行けるような
気がしてる

09. Moment

僕たちはいつだって
今以上のことを
求めては今を
見失ってた

だけどこの場所でただ
こうしてられること
ちゃんと感謝して
生きていかなきゃ

この気持ちをただ
君に伝えるよ

時が流れていったって
決して色褪せない瞬間を
触れた君の指先が
確かな熱で教えてくれるよ
重なり合う想いだけ
そっと未来へ繋いでいくんだ
それだけで僕らきっと
息をしてくれるから

いつまでもこのままで
いられる訳じゃない
そんなことは僕も
分かってるんだ

だからこそ今を
強く焼き付けるよ

失望の果て
苦しくて泣き出しそうな夜も
その先へずっと
想いを繋いで
この瞬間をただ
生きていくよ

時が流れていったって
決して色褪せない瞬間を
触れた君の指先が
確かな熱で教えてくれるよ
重なり合う想いだけ
そっと未来へ繋いでいくんだ
それだけで僕らきっと
息をしてくれるから

それだけで僕らきっと
息をしてくれるから

僕がこの場所でただ
こうしてられること
ちゃんと感謝して
生きていかなきゃ

この気持ちをただ
君に伝えるよ

10. Make Me Free

単調な毎日を抜け出し
生きているってことを感じたい
退屈な日常に呑まれてちゃ
心まで死んで行ってしまうよ

鳴り響いていくサウンドが
僕に自由を与えてくれる
刻まれていくリズムに合わせ
この今を僕ら踊るんだ

終わらない音の中で
今は眠らないで
煩わしい明日のことは
忘れてただ踊るんだ
夜が更けていったとしたって
今は眠らないで
煩わしい明日のことは
忘れてただ踊るんだ

単調なはずだった毎日も
どこか輝いて見えるような
そんな瞬間が今この場所で
訪れる予感に満ちている

終わらない音の中で
今は眠らないで
煩わしい明日のことは
忘れてただ踊るんだ
夜が更けていったとしたって
今は眠らないで
煩わしい明日のことは
忘れてただ踊るんだ

ほら
いつまでも
止まらない

11. Elevation

空に浮かんでく七色の言の葉の中で
唄うように今日が刻まれてく
忘れたいこと 忘れたくないこと全てを
混ぜ合わせて消え行く景色

今、ゆっくりと上昇していく 全ての向こう側へ
螺旋を描いていく光へ 目を閉じたらすぐに
もうすぐ、ほら。

見慣れた景色が生命の灯火の中で
眩いほど彩りを増す
今までずっと見つけられなかったものは
こんなところに転がってたんだね

今、ゆっくりと上昇していく 全ての向こう側へ
光に満ちた世界へ 目を閉じたらすぐに
もうすぐ、ほら。

今、ゆっくりと上昇していく 全ての向こう側へ
螺旋を描いていく光へ 目を閉じたらすぐに

壊れた過去を抱きしめて 壊れた未来へ向かおう
光に満ちた世界へ 目を閉じたらすぐに

「さよなら。」

12. RESONANCE

行く宛でもないまま
人は何処へ向かうんだろう
鈍色の街角に
空っぽの僕は揺れる

降り止まぬ雨のように
時間は降り注ぎ
心の在り処でさえも
曖昧にしていくんだ

自由を映して 虚構で固めた世界を
切り裂くように 今 目の前から
君の声が聞こえた

僕の心が君と共鳴していく
忘れかけた感情に火が灯る
分かり合えはしない 一つにはなれない
それでも僕らはここにいる
今この場所で二人分の悲しみが
確かに生きる喜びに変わる
それだけでもう他に何も要らないから

人はいつだってきっと
居場所を求めては
愛に縋り付いてんだ
そうやって生きているんだ

こうしていつも抱えた不完全さでさえも
僕らは肯定しあえるのなら
問題はないだろう

僕の心が君と共鳴していく
失くしかけた記憶が蘇る
置き去りにされ ただそこにあった
鼓動に理由が生まれる
今この場所で二人分の孤独が
確かに生きる喜びに変わる
それだけでもう他に何も要らないから

僕の心が君と共鳴していく
忘れかけた感情に火が灯る
分かり合えはしない 一つにはなれない
それでも僕らはここにいる
今この場所で二人分の悲しみが
確かに生きる喜びに変わる
それだけでもう他に何も要らないから
それだけでもう僕は歩いていける気がした

13. Life Goes On

全てはきっと簡単にはいかない
今日だって僕はまた迷宮の中だ
真実は触れるたび形を変えて
考えるほどに分からなくなっていく

そんな時でもひとつ確かなものに
暮らしの中で出会えるなら…

俯いた視界を掠めていった
微かで脆くか弱い幸せ
愚かだと笑われても構わないから
その光を追いかけていくんだ

全てをそっと受け入れられるほど
僕は強くも弱くもなれないと 知った

俯いた視界を掠めていった
微かで脆くか弱い幸せ
愚かだと笑われても構わないから
その光を追いかけていくんだ

長い旅路のふとした片隅で
大切にすべきものにきっと出会える
愚かだと笑う声も踏み越えて行け
その光を信じていくんだ

いつだって信じていくんだ

14. Alpha(Instrumental)